

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800036		
法人名	社会福祉法人 城陽福祉会		
事業所名	グループホームひだまり浜道裏 1F		
所在地	京都府城陽市平川浜道裏29-5		
自己評価作成日	平成25年1月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成25年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の重症化に伴い家族の協力の下、専門医への受診につなげることで利用者一人一人の症状の違いを医学的観点から知る機会を得、認知症に対する理解と知識を深めることが出来た。また専門医からの詳細な説明は非常に理解しやすく「出来るだけの事をしたい」という思いで受診に立ち会われた家族様からは利用者の認知症状に向き合われ「受診して良かった」という感想を頂けた。周辺症状に対し日々の睡眠時間や食量、表情や言語など24時間の記録が薬の量をも左右する大きな指標となり観察力や記録の重要性を再認識した。また職員の勤務経験や能力にあわせて資格取得や研修を受講し、所内研修として展開、認知症ケアの理解と対応力を深められた。また、推進会議のメンバーの協力で地域のお寺のご住職に毎月法話をして頂ける様になり地域との交流が少しずつ増えつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

城陽市の北部、隣に中学校がある、静かな住宅街で、犬の散歩コースになっているところに建っている。近くにある法人特養が節電対策としてホールを開放し、映画、カラオケ、コンサート等を開催し、地域貢献しているため、利用者が地域の人と交流できるだけでなく、自治会が避難訓練に協力してくれたり、中学校の運動会やコンサートに招待されたり等、地域との関係が良好である。職員は社会福祉士、栄養士、心理療法士等、介護以外にも専門資格をもっており、グループホームの経験は浅いものの、実践者研修等に参加し、認知症の医学的理解や事例検討を学び、向上していこうという意欲が高い。さらに、畑でどろんこになったの収穫体験、お寺での法話と生演奏、針の行方を気にしながらのお裁縫や夏野菜の植え付け等、利用者の生活が豊かに彩られているのは、職員だけでなく、家族、地域の人たち、ボランティアの力が大きい。また認知症医への受診支援もこのグループホームの大きな特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・個人として理念を実践に繋げているが、新しい職員では認識に出来ていない。 ・安心して日々の生活が送れる様に”その人らしさ”を大切にケアを心掛けている。	「安全で 安心な その人らしい暮らし」をホームの理念としてそれに基づいた基本方針を6項目定め、玄関ホールに掲示し、利用者や家族には契約時に説明している。職員は常に理念を核とし、利用者の言葉に正面から向き合い、対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域催事への参加、回覧板や施設行事の案内を自治会の各家庭に御利用者様と訪問している。 ・行事への参加はあるが、季節的なものが多く、日常的とは言えない。	日常的に利用者は散歩や買い物、生協の共同購入の商品を取りに行くなどの際に地域の人と話している。近くの中学校、お寺、コミセン等でのイベントにでかけている。平井神社の子ども神輿を見に行くのも楽しみである。住職の法話や音楽療法士、多くのボランティアの来訪も生活に彩りを添えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症に対する理解や支援には時間を要する。 ・地域の広報には、法人の介護予防教室の案内が掲載されている。 ・近隣中学との交流を通して、子供の頃からの認知症理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・御利用者様に対する課題は職員間では話し合いが進んでいるが、勤務時間中という事もあり会議に出席する職員に限限りがあり、会議録の回覧で内案を把握できるようになった。	家族、自治会長、民生児童委員、高齢者クラブ、市高齢介護課、地域包括支援センター等がメンバーとなり、隔月に開催し、議事録は全家族に送付している。利用者の状況を詳細に報告し、意見交換が行われ、ホームの支援としての活動となっている。	運営推進会議がさらに発展し、充実していくために、警察署、消防署、中学校長、スーパー店長、銀行支店長、郵便局長等、地域の資源の中心的人たちにゲストメンバーとして参加していただくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認知症の方の状況を伝え、相互に話し合いを続けている。 ・参加させて頂く事で、事業所内だけでは気付けないことに気付けるきっかけとなっている。	市の介護相談員2名が毎月来訪し、利用者の声を聞いている。市の地域密着型事業所連絡会に参加し、他の事業所との交流や研修をしている。なかでも事例検討は勉強になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・門の施錠に関しては、家族様理解のもと行っている。 ・言葉の拘束に関しては、各職員が意識している。	「身体拘束をしない」という方針は、パンフレット、契約書等に明記し、マニュアルを作成するとともに、職員研修を毎年実施している。スピーチロックについても職員は認識している。認知症の周辺症状を考慮して、門扉を施錠している。	利用者は日々変化し、さまざまな状況が生じるとしても、職員の十分な話し合いのもと、1～2時間くらいから、門扉を開錠する時間をふやしていけないか、検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉遣いに関しては、各職員の意識も高く職員間で注意する場面もある。 ・講習や研修に参加することで、より意識が高まった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・関係者と話し合いは出来ているが、特定の職員に限られ、又、管理者任せになっている。 ・知識については講習や研修を通して学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者任せになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ある家族よりインフルエンザ予防接種と併せて肺炎球菌ワクチンの希望があり、他の利用者家族にも伝えることで多数の方の接種に至った。法人内の職員の異動は行っていないが、職員の個人的な理由による退職がある。	利用者1人ずつの『ひだまり通信』を年に数回発行し、担当職員からのコメントをつけて家族に郵送し、喜ばれている。毎年クリスマスオープンカフェには多数の家族が来訪し、交流している。畑の収穫に招待してくれたり、認知症医の受診の順番取りなど、家族は協力的である。予防接種の希望があったので対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・個別や職員数人での意見や提案を聴いて下さる機会があり、反映やアドバイスを頂いている。	毎月ユニットごとにカンファレンス会議を開催している。他に運営と研修をテーマに合同会議を年数回開催する。職員は研修受講、資格取得など希望を述べることができる。事故の検討の際など、職員は活発に意見交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者よりスキルアップや給与に関する事も説明していただく機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々の職員の力量に合わせた研修や講習を受ける機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他事業所同士の話し合いの場はあるが、誰もが参加出来るものではなく、不定期に行われる。 ・職員個人の研修で他の事業所交流を持つことができ、サービスの向上に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・日々記録を取り、コミュニケーションを図ることで表情や行動を読み取り、不安の解消に努めている。 ・個々の職員が傾聴や受容を意識していると思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・状況の変化に応じてその都度、対応している。 ・イベントを通して御家族様と話す機会を設けている。 ・話しやすくなる様、努めている。(声の大きさや表情)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・前の施設や在宅での生活を通して「何の支援が必要か、求められているのか」考えている。 ・問題解決の為に選択肢を提案し、本人様や御家族様に委ねている。 ・他サービスについては勉強不足。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で掃除や料理や洗濯・裁縫など人生の先輩として、教えていただく事がまだまだあり、また庭で摘んできた花を職員に下さったり、職員の体調を心配して背中を摩られるなど、利用者と職員の共に支えあう関係性がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が農作物を作られている畑に利用者全員を呼んで頂き、無花果やオクラ、さつま芋の収穫を楽しまれた。インフルエンザの予防接種に伴い肺炎球菌の情報を家族様より頂き、他の利用者にも希望される方に情報を共有し、接種に至った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ホームとしては季節の花見や地域の神社へ神輿見物に出かけるなど支援に努めている。馴染みのある方がホームに来所される事は多々ある。また、家族様とお彼岸やお盆・お正月の外出など自宅に居られた時と同じ様に過されている。	利用者の友人が絵手紙をくれたり、面会にきてくれたりする。昔住んでいた近所の友人グループが来訪し、一緒に食事に行こうと誘ってくれる。お寺のコンサートに参加した際、利用者が偶然遠縁の人と会い、懐かしそうに話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の今出来ることは何か、共同生活の中で役割りを持って貰い利用者同士が認め合える、支え合えるように努めているが、職員の力量が試されるところでもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・亡くなられた方の通夜・告別式に参加されるなどの支援を行っている。法人内の特養に移動された方との面会や入院先へのお見舞いをおこなっている。御家族様より来所される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活内の言動より、希望や不安を汲み取り、ケアプランに適するかどうか考えている。 ・各職員が利用者本位を意識し、希望をケアプランへ導入、ケアカンを通して意見交換に努めている。	利用開始時には、利用者、家族、利用していた介護サービスのケアマネジャー等から情報収集し、センター方式に記録している。市役所、国鉄、銀行等の職歴、水墨画、計算、洋裁等の得意なことなどが聴取されている。「世話にばかりなりたくない」「何でもみんなと一緒にしたい」「今日は何日か知りたい」等、利用者それぞれの意向が把握されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・御家族様からの情報やホームでの生活の観察、職員同士の情報共有で把握している。 ・状況の変化に応じて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送りや状況の変化を伝達している。 ・身体面、精神面、感情面は日々変化しているので把握は難しいが、観察や声掛けで対応している。ほぼ自立で入所されている方について課題を感じる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・話し合いの場は設けられているが、発言する人が固定されている。 ・日々、変化のある状況について出来るだけ早く対応するよう心掛けている。	介護計画はケアマネジャーが作成し、毎月のカンファレンスで職員の意見を聞いている。家族の協力により使い慣れた釣り道具や編み棒をもってきてもらい、それを使うことで利用者のかつての楽しみを支援している。介護計画は利用者ごとに個別であり、生きがいにつながるものである。介護記録は介護計画ごとの記録ではなく、介護拒否の記述もない。モニタリングは介護計画ごとに毎月実施している。	介護記録は介護計画の項目ごとに介護を実施したかどうか、そのときの利用者の発言や表情、介護拒否されたときはその要因等を書き、モニタリングの根拠となるような記録にすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の職員間の引継ぎで話し合いを進めている。 ・各職員が記入した記録を読むことが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症状の重症化に伴い、協力病院以外の認知症専門医への受診の付き添いなど。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの方々や中学校の協力を得て、畑仕事やティータイムコンサートなどインフォーマルな社会資源が活用できていると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期的に訪問診療にて適切な医療体制が出来ている。 ・その他の専門医による診察も連携出来ている。	利用者の本来のかかりつけ医を大切にし、家族、無理な場合は職員が受診に同行している。いずれの場合も情報を文書にし、医師との意思疎通を図っている。利用者の認知症医への受診を支援している。歯科は訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・法人内には配置されている所もあるがホームには看護職が居ないため、職員同士での御利用者様の変化の情報共有に努め、主治医に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・退院時には、病院職員(PT)によるホーム内での介助方法の指導を受けた。 ・入院中、食事介助に職員が出向き、声掛けや介助の仕方を病院職員に伝えるなど情報交換に努めた。入院中の床擦れもホームで対応し早期改善に至った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組めていない。	利用者の重度化やターミナルに関して、方針を文書化したものはない。利用者や家族の質問にたいしては、老健や特養の紹介をしている。いままでも転出している利用者がある。医療行為はできないとしても、長年共に暮らした利用者を最期まで介護したい気持ちを職員はもっている。	利用者の重度化やターミナルに関する、グループホームひだまり浜道裏としての指針を文書化し、それをもとに早い段階から利用者や家族の意向確認をしておくことが求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全員修了したが、定期的には行っていない。実際には冷静に対応できるよう訓練が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災訓練のみ行っている。 ・法人の関連施設との合同訓練とホーム独自の避難訓練を合わせて年4回行ったいるが、回数を重ねる必要がある。	火災に関して消火器、通報機、感知器、スプリンクラー、防火管理者をそなえ、消防計画をたて、年2回の避難訓練を消防署や地域の人の協力のもと、実施している。備蓄を準備し、ハザードマップを掲示している。職員は救命訓練を受講している。	今後ますます避難訓練は重要になってくるので、夜間の訓練、予告なしの訓練も含めて、隔月くらいに実施し、職員が体で覚えるようにすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れない様心掛けている。 ・人格を尊重し、共同生活の中でのプライバシー確保を意識している。	居室やトイレは中から鍵をかけることができ、プライバシーが保たれている。利用者への言葉遣いはていねいに、を心掛けているものの、ていねい過ぎないように臨機応変にしている。飲み物や着る服は利用者が選択できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・オープンクエッションとクローズクエッションを使い分け、自己決定に心掛けている。 ・自由に表現できる環境を大切にしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作りや掃除洗濯などの役割りのある生活と趣味などを盛り込んだケアプランに取り組む中で、本人様のペースで日々支援している。法人の行事も希望に合わせて参加していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・パーマや毛染めをされる方、ご自分で編まれたセーターを着られるなどそれぞれにおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの好き嫌いや食事の形状、味付け等含め、一人ひとりに合った支援を行っている。 ・盛り付けや配膳を御一緒に出来る様に支援している。	法人の管理栄養士作成の献立表にしたがって、手作りしている。食材は生協共同購入や利用者と一緒に買いにいたりしている。調理や盛り付け、後片付けに利用者も力を発揮している。おかわりをする事もできる。職員も一緒に会話したり、笑ったりしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・法人特養の献立を元にバランスの取れた食事の提供と食事量・水分量の摂取記録を取り、摂取が充分でない方には補食などで補っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨きを定着させている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄の失敗が無いように、一人ひとりの排泄パターンを記録から把握し対応出来るように努めている。	なるべく自然排泄を、という方針で、利用者ひとりひとりの排泄パターンを把握し、利用者の表情やしぐさもふくめて声掛け誘導している。おむつが外れた利用者もいる。また水分補給と運動で自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こ類を意識して使用している。排泄を促すため日常のケアプランに活動性を盛り込む支援している。毎日の体操、夜間・起床時の水分摂取など十分な水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴を拒否される方が多いことから決められた入浴時間で内での対応になっているが、自由に入れる方にはその方のペースで入って頂いている。	浴室は窓が大きく、夕日が見える。週に2回の入浴を支援している。職員は気分がほぐれた利用者とはだん聞けない話を聞くようにしている。ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの就寝時間には違いがあるが、日中の活動を考えながら対応している。 ・昼夜逆転にならない程度での昼寝の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・認知症薬の服用で身体面や精神面での詳細な記録や睡眠時間の記録を残して薬調整の支援に努めている。薬の変更時には薬の副作用など学ぶ機会となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	活歴やまだある力を活かし、食事量が低下しているのにご飯が好きな方には、敢えてご飯を盛りつけて頂くなどの支援に努めている。ホームの物品を受け取り、玄関の掃除、花を生けるなど。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・認知症の重度化により、食事・排泄・入浴介助に時間を要し、散歩は可能であるが日常的な外出支援は難しい。 ・個人的な外出をするには、人員や時間に余裕がある時の支援に留まりつつある。。	ふだんは散歩、買物、お寺のコンサートでおぜんざいをいただいたりしている。盆栽展、イルミネーション見学、梅林園等の季節の外出をしている。買い物レクとして利用者と職員が1対1で食べたい店で食事をし、買いたいものを買うという取り組みは好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出した際に自身で払って頂くことだけに留まっており、普段はホームの金庫で預からせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人持ちの携帯電話に関しては、電話されることを止めてはいない。ホームの電話は自由に使えるが、認知症による理解度の低下から利用者は使えないものと思込まれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・清掃や整理整頓を心掛けている。 ・御利用者様の作品を壁に装飾したり、イベントの際には季節感のある飾り付けを心掛けている。	認知症の刺激となる強い光はカーテンで遮り、温度湿度の管理をしている。不快な音はしない。建物の周りは芝生になっており、利用者の散歩道である。プランターに季節の花を植えている。玄関ロビーにお正月の花、2階への階段壁に季節の写真、居間兼食堂は全面ガラス戸で明るい。壁には利用者の書き初めを掛け軸にしてかけている。手作りの日めくりをおき、「今日は何日？」に対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テレビの前のソファに座られゆっくり過ごされている。 ・1階の方も2階の方も互いの階を行き来し、時間を共有されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具を置かれる等、在宅での生活に近づけている。 ・思い出の品を飾られたり、御本人様の空間を作り過されている。	居室は洋間、洗面台とクローゼットがついている。畳を敷いている利用者や絨毯にホーム炬燵をおいている利用者もいる。毛糸で編んだピノキオのような双子の人形、長い姿見、桐の筆筒、ドレッサーの上に化粧品、お仏壇、大きな額入りの布製美人画、愛読書、筆記用具等々、利用者は使い慣れたものを持ち込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室に表札を、トイレには「トイレ」と標識を付け、分りやすいように心掛けている。 ・安全については、御利用者様の動線に（特に足元）物が無いように心掛けている。 		